

【平成23年11月】

情報連絡員 調査結果概況報告

静岡県中小企業団体中央会 連携組織課

本調査は、静岡県中央会に設置されている情報連絡員〔中小企業の組合（協同組合、商工組合等）の役職員87名に委嘱〕による調査結果です。調査の対象は、情報連絡員が所属する組合の組合員の前年同月の状態と比較し、全体的な景況をDI値として規定したものです。

$$DI \text{ 値} = [(\text{増加} \cdot \text{好転組合数} - \text{減少} \cdot \text{悪化組合数}) / \text{調査対象組合数}] \times 100$$

11月の調査結果の概況

当月のDI値では、売上高 -29.9(10月 -32.2)、収益状況 -48.3(同 -47.2)、業界の景況 -40.3(同 -46.0)となった。製造業にて回復の兆しが見られるが、円高の影響や国内産業空洞化への懸念、企業間格差の拡大等課題も多い。またタイにおける洪水の影響も見られた。

「在庫数量」を除く8項目にて、本県と全国の比較では「資金繰り」など4項目で本県の結果が全国を上回る数値となった。

昨年11月の値と比較すると、「販売価格」など4項目で悪化幅が縮小した。

前月の値との比較では、「資金繰り」など4項目で悪化幅が縮小した。

DI値の推移 ~ 「在庫数量」のみプラス値が高いほどマイナス要因と定義

	H22.11 (B)	H23.10 (C)	製造業	非製造業	H23.11 (A)	H23.11 全国	対前年同月	対同年前月
							H23.11-H22.11 (A)-(B)	H23.11-H23.10 (A)-(C)
売上高	-27.6	-32.2	-23.1	-35.5	-29.9	-30.1	-2.3	2.3
在庫数量	-13.1	-3.2	-10.2	-13.6	-11.5	-11.4	1.6	-8.3
販売価格	-27.6	-10.3	-15.4	-8.3	-11.5	-19.3	16.1	-1.2
取引条件	-23.0	-24.2	-17.9	-22.9	-20.7	-19.9	2.3	3.5
収益状況	-44.9	-47.2	-46.2	-50.0	-48.3	-41.8	-3.4	-1.1
資金繰り	-27.6	-29.9	-28.2	-18.7	-23.0	-27.6	4.6	6.9
設備操業度	-2.6	-25.6	-28.3		-28.3	-15.2	-25.7	-2.7
雇用人員	-15.0	-18.4	-28.2	-10.4	-18.4	-14.1	-3.4	0.0
業界の景況	-42.5	-46.0	-35.9	-43.7	-40.3	-42.6	2.2	5.7

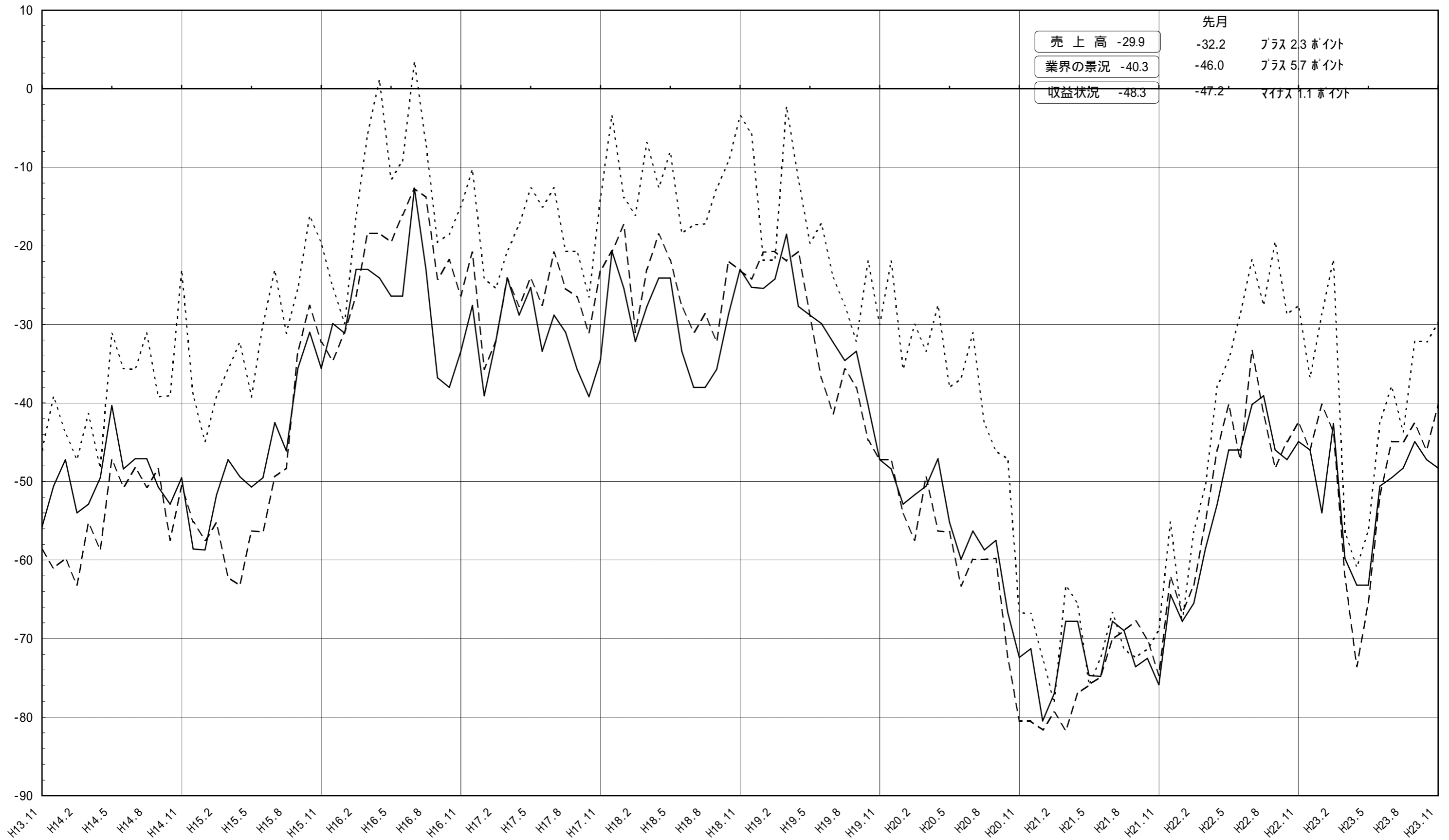
情報連絡一覧票（静岡県中央会 平成23年11月分）

	集計上の分類業種	具体的な業種	組合及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
製造業	食料品	水産食料品製造業	年末にかけての消費向上に期待したいところだが、景気減退感が心配。
		水産食料品製造業	歳末につき注文が増え、生産増となっている。
		水産食料品製造業	国内の製品市況が軟調。一方で国際的需要から原料魚の価格上昇が続き、採算悪化。
		製茶業	放射能問題が未だに尾を引き、厳しい状況。
	繊維工業	織物業	業界全体の受注量は大きく増加していないが、織布工場の廃業等により工場数が減少しており、個々の仕事量は若干増加している。
		染色整理業	多品種小ロット化が進み取引条件、収益状況とも悪化している。受注が上向くことを期待している。
	木材・木製品	その他の木製品製造業	取引先となる蒲鉾メーカーからの受注は、これまでの場合9月頃に10～12月の概算数量を知らせてくれたが、最近は市況の状況を見ながら製造しているため在庫の調整が厳しくなっている。今年受注数量は、前年度並みとなる見込み。
		宗教用具製造業	前年並みの売上額を確保するのがやっとで、材料費が多少値上げ傾向になっていることから利益を圧迫してきている。商品の値上げの意向が強い。
		製材業、木製品製造業	昨年10月に施行された「公共建築物等木材利用促進法」による農林水産省での昨年度の利用実績は33万㎡と発表された。その他国の機関では19機関、都道府県方針は35、市町村方針では81ヶ所で策定済み。今後、利用量が増大していくことを大いに期待している。
	紙・紙加工品	パルプ・紙・紙加工品製造業	年末に向けて少し生産は上がってきているが、価格についてはまだ横ばい。
	窯業・土石製品	セメント・同製品製造業	対前年比47.5%。ますます迷路に落ち込んだ。明るい材料がまったくない。
		セメント・同製品製造業	第2東名の工事も終り、骨材生産、出荷量とも低迷している。来年度の公共事業は5%減で、東北以外はさらに5%減の見込み。数社が閉鎖または廃業を検討している。
	一般機器	生産用機械器具製造業	組合員のうち、機械部品加工業者が受注の減少が続き、先行き見通しが芳しくないことから廃業することとなった。
		生産用機械器具製造業	当組合は海拔2～3mで、東日本震災クラスの地震が発生すると被害は甚大になると想定される。組合員は将来への心配を抱えたままの操業を続けており、自然と設備投資への意欲も消極的になっている。自動車関連は大変忙しいが、今後の円高進行により長続きは見込めない。来年の見込みもたない。
		生産用機械器具製造業	ここ数年、新製品開発に注力し、各地展示会へ積極的に出展してきた組合員から、徐々に受注に結びついてきたとの明るいニュースがあった。しかし、全般的には欧米の経済環境悪化の傾向から来春以降の不透明感が強まっている。
	電気機器	電気機械器具製造業	前年が良かっただけに、それと比べると本年度は悪化。それでも一昨年並みの景況ではある。
	輸送用機器	輸送用機械器具製造業	東日本大震災の影響の巻き返しを予定していたところへタイ大洪水の影響がまたしても起こり、低迷している。
		輸送用機械器具製造業	全般的には不変だが、1社のみタイ洪水の影響にて減少・悪化となった。
		輸送用機械器具製造業	タイ洪水による生産が国内に一時的に回帰し、需要増となっている。一方で、今後の動向が心配される。
		輸送用機械器具製造業	引き続き海外向け売上げが好調であるため、全体的には前年同月より数値は良くなっている。その反面、依然として業種の格差が著しいほか企業間による受注量の格差も生じている。また、金融機関や商工団体などによる海外移転に対する支援については、組合事務局としてどのように捉えてよいものが困惑している。
その他	漆器製造業	下旬にあった市主催の産業フェアに出展したが、状況は厳しかった。年明けには県内の伝統産業工芸展が予定されており、期待する。	

集計上の分類業種	具体的な業種	組合及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）	
非製造業	卸売業	セメント卸売業	災害復旧関係を主体に本年度最高の出荷量となったが、前年度対比では5.7%の減少となった。
		各種商品卸売業	一部建設関連業種で台風15号被害の特需が引き続きあり、日曜も操業している。その他の業種は全般的に低迷。
	小売業	機械器具小売業	地域の小売店にとって、非常に厳しい状況。現在取り組んでいる太陽光発電システムについては、少しずつではあるが依頼が来るようになった。組合では太陽光にて県下実績1位の企業と事業提携。成果も着実に上がるものと確信している。家電白物商品、暖房器具が好調の兆し。
		鮮魚小売業	鮮魚小売店は売上の減少が著しい。
	商店街	各種商品小売業（静岡市）	市内で大型店のリニューアルオープン以来、来街者は目に見えて減っている。これまでシネマストリートとして浸透してきた当商店街だが、多くが大型店のシネコンに移転したものの、残る劇場を前面に出していきたい。だが当商店街だけの取り組みでは、活性化させるのが大変だと思われる。
		各種商品小売業（三島市）	前月に引き続き、売上げは増加傾向にあるが収益状況はあまり変化ない。全体的に人通りは、若干減少傾向にある。飲食関係は、特定の店舗以外は収入が悪化している。
		各種商品小売業（沼津市）	11/12、13にはイベント「第15回よさこい東海道」が行われた。両日とも天候に恵まれ、大勢の観客で賑わった。また中央公園で沼津ブランド物産展が行われ、好評だった。
		各種商品小売業（焼津市）	11/19以降、商店街ではイルミネーションを点灯させ街を照らしている。
		各種商品小売業（静岡市）	11月初めには大道芸ワールドカップが開催され、メイクコーナーや無料休憩所、手荷物無料預所を設置し、来街者の利便性を図った。11/15に終了した「お街ゼミナー」については、参加者から今後も継続して欲しいとの要望があった。大道芸ワールドカップ以降、商店街の来客が少ない。近隣大型店のリニューアルオープンの影響か？
		各種商品小売業（伊東市）	今月は特に大きなセールがなかったためか、低迷した。12月には初旬、中旬、下旬と大きなセールを3回行う予定。
		各種商品小売業（袋井市）	初の企画となる「軽トラ市」は強風と雨のため、やむなく中止となった。参加への問い合わせも多く、フリーマーケットやグルメもあわせ60ほどの出展があったのに残念だった。
	サービス業	自動車整備業	車積載車による事故車、故障車の排除業務を行う場合、車輛運搬料金を貰うためには有償運送許可が必要となるため、団体が行う講習の受講が必要となり、これまでのように保険会社に請求が出来なくなってきた。
		不動産取引業	多少落ち着いてきた感はあるものの、売りたい人ばかりで需給バランスが悪い。
		廃棄物処理業	肥・飼料関連は円高とともに荷動きが非常に少なくなっている。
		宿泊業	前年同月比で3ヶ月連続で売上高が微増。宿泊客数より売上高の伸びが大きく、客単価が上がっている。低価格志向に歯止めがかかり、潮目が変わったように思われる。
		宿泊業	前年並みに戻ってきた。しかし、前年並みでは健全経営までは程遠い状況。
		情報サービス業	技術者のオフショア化については、長い間中国がその対象となっていたがここに来てベトナムにスポットが当たっている。組合員からの現地視察報告では、ベトナム人と日本人の関係性は大変良好で、今後期待が多いに持てるとのこと。組合で設置する事業連携委員会が主体となり、IT-BCP関連の商品やサービスの連携について活動を開始。本年度はパイロット的な内容で動き、次年度以降本格的な事業化を目指す。
		その他のサービス業	中旬より受注状況が好転し、各社とも警備員のやりくりしに苦労をした。12月も引き続き順調に推移すると思われる。
	建設業	総合工事業	静岡県建設産業ビジョンでは、10年以上にわたり公共事業の削減を中心に日本の建設投資が減少する中、供給過剰構造にあるといわれながらも建設会社や従事者は減少してきた。静岡県は、新東名の建設などがあり、他地域より建設バブルが長引き過剰供給への対応が遅れ、建設業者の淘汰が続く厳しい環境。地域維持型の入札契約、社会保険未加入業者の排除など過剰供給力の是正を優先すべきとの専門家の見解もあり、今後業界がどのように自立していけるか課題が多い。12/1～1/15年未年始無災害運動を実施し、組合員に啓蒙。12/17、青年部が県イベントにてショベルカーによる書道実演にて業界PR。
		総合工事業	一部地域においては、台風15号の災害復旧工事で受注増。しかし全般的には工事量は、減少傾向。23年度建設関連補正予算、及び24年度予算の確保に期待。
総合工事業		公共工事の発注状況は前年度並みであるが、台風12号、15号関連の災害査定が完了しておらず、関連工事の発注は2月以降になる見込みで状況は好転していない。	
職別工事業		12/17、青葉イベント広場にて行われる催しでミニ橋脚を出展。	
運輸業	道路貨物運送業	昨年はエコ関連の経済対策の影響で荷動きが順調だったが、今年は冬物商品の荷動きも低調で、収益状況は悪化。軽油価格が再び値上がりしており、運行コストが上昇。	
	道路貨物運送業	燃料がまた上昇し始めてきている。運賃が上がらないうえ、コスト上昇で経営が厳しい状況である。	
	道路貨物運送業	運賃値下げ要請、安定した物量の確保が出来ない中、ドライバーの職種離れによる人材確保が困難になり、ますます厳しい経営を強いられている。一部自動車関連においては、回復の兆しが見え物量も増えているが、見通しは不透明。	

D I 値（前年同月比）情報連絡員報告 平成13年11月～平成23年11月

このD I 値は県内の地域、業種を代表する組合役職員 87名の情報連絡員から寄せられた景況等に関する情報の一部を表したものです。



----- 売上高 —— 収益状況 - - - 業界の景況